

でもやつぱり立守が1番やから

語り手 稲尾 美宇 (高校十六期生 食マネジメント学部)

聞き手 木村 真緒

高校での探究活動

―それまでなんか印象的だった行事とかありますか？

行事事は普通にめっちゃ楽しかったし、でも自分の性格的に、いざとなる時が来ないとやる気が出んような、中学も一、二年だらだら過ごして、三年で探究活動頑張った、みたいな。高校も、一、二年の時は、普通に生活してたみたいな感じで、三年になって、AP (探究活動の授業) になって、頑張ったって感じやから、一、二年で特にこれがなんか今に役立ってるとかは、あんまりなかったから、今思えばもう普通に過ごしてたって感じ。でも、最初は、ほんまにAP行きたくなくて、まず、毎週木曜日夜笠に行くのがしんどくない？

―しんどいです。ほんまに、なんで木曜日行かなあかんのみたいな。

別に最初、APに対してモチベがあつたわけでもなくて、どうしようみたいな、社会問題って何みたいなの、自分って何やったらいいのみたいな、自分が何に興味あるのかみたいなの、全くわからへんくて。で、辻先生から色々アドバイスとかしてもらった時に、自分が探究しようと思つたことは、手段であつて、解決したいとか探究したいことじゃないなみたいな氣ついて。そこから、軌道に乗ってみたいな感じやったかなって。

―何が一番大変だったとありますか。

それこそ一番大変やつたなと思うのは、自分何に興味あるんや

ろ、社会課題って何。みたいな。ほんまにちょうど今ぐらいの時期、五月、六月ぐらいが一番しんどかつたなあって思うけど、そこを乗り越えたから、自分何に興味あつて、こういう探究してみたいみたいなんが見つかつたかなとは思ふ。今に役立ってはいいるかな。その時はほんまにしんどかつて。ほんまに逃げ出したかつた。正直。

―探究活動のテーマは、食物アレルギーですよね。どういうアプローチで進めていったんですか。

今も食物アレルギーやつてる子いると思うねんけど、自分は食物アレルギーに対応した何かを作りたいっていうんじゃなくて、どちらかといえば、食物アレルギーに対する理解を広げたいみたいな感じがあつて。プロジェクトは小学生を対象として、食物アレルギーってこういうので、みたいなとか、そういう食物アレルギーに対応したお菓子でこういうのがあるんだとか、なんかそういうワークショップとかを2回やつてプロジェクトやつたって感じ。

―そこで、食に興味を持つて、食マネジメントに行こうと思つたんですか。

そう。中学の時からこの学部行きたいって決めてる人いるやんか。でも自分そんなタイプじゃなくて、この時期まだ学部決めてなかつてんな。経営行きたいって思つた時があつたり、国関行きたいって思つた時があつたり、政策とかもあつた。めっちゃいろんな学部ここにも興味あるみたいな思つてたけど、探究やつたことで、探究つて、結局自分の興味あることをやらへんかつたら、楽しくないやんか。自分ほんまに興味ないこと続かへんのよ。だから普通に食べるのが好きっていうほんまにその理由から食っていうテーマを選んで、最終的に食物アレルギーについてやつたんやけど。この時期の探究何にしようって考えてる時期と、

進路どうしようって考える時期って一緒やん。だからっていうのもあって、食について考えてる時って楽しいし、なんか新しいこと知れたらめっちゃ面白いなと思って、食マネかなって思ったのがきっかけで感じかな。

だから、逆に言えば、A Pなかったらこの学部きてなかったのかなと思う。A Pがあったから、食マネ進もうと思えたし、A Pがあったから今に繋がってるなって思うこともあるし、今となればもうほんまにしんどかったけど、なかったらまた違う道にいったんやろうなどとは思う。他の学部に比べたら、楽じゃないけど、なんて言うか大変じゃないから、自分のしたいことできるし、逆に、食マネって、なんか期待して行きすぎると、一回生の最初って、ほんまに食について全然学べんのかな。なんか、ほぼ経営とか経済とか、それこそ統計みたいな、エクセル触ったりするし。何やってんねやろ。みたいな感じやねんけど。そこそこ乗り越えて二、三、四回になったらどんどん専門的になっていくし、自由が効きやすいからこそ、課外活動じゃないけど、サークルとはまた別に学生団体が多いんよ。食マネのじゃないねんけど、結局入る人は食に関する系やから、食マネの人ばっかい。四か五個ぐらいあって、自分も一個入ってんねんけど。だから、探究で食マネに興味あるって思ってた食マネに入って、その経験があったから、今の学生団体にも入ったし。

六年間の吹奏楽部での思い出

―何が一番思い出に残ってますか。

一番思い出に残ってるのは、ほんまにもう一番最後の自分の時の定期演奏会かな。楽器は続けたいと思ってて、今もたまに吹いたりしてる

けど、サークルとかで。吹奏楽自体はもう高校で終わりにしようと思ってたから、ほんまにもう大変やったけど、いい経験になったの。

なんかさ、吹奏楽って女の子多いし、人多いし、なんて言うの。みんなで一つのとか、もうほんまに大人数で一つのことやって。しかも一、二、三つて順位つけられるわけでもなく。勝負やけど、スポーツの世界とはちよつと違う。見せ方が勝敗を決める勝負。ぶつかることも多いし、いろんな意見あるし、みたいな。それこそ、楽器やってる人って、変な人が多いから、ほんまに個性豊か。しかも、自分の学年がとにかく個性豊かやったから、いろんな意見があつて。何回も何回も話し合いとかやって、そこでの話し合いとか、嫌な時もあったけど。今学生団体で、自分二回生がその中心になってやるんやけど、その二回の中で役職っていうのを決められてて、その中に入ってるんねんけど。話し合いとかの時に、吹部入ってたから、自分こうやって考えられるんやろう。吹部入ってなかったら、この視点持ててなかったんやな。話し合いとかある部活やったから、こういう視点が持てるんやろなって。

現在の立守とのつながり

今の高三のがなんかすごそうやな。みんなそう話してる。スポーツも最近みんなすごくない。サッカーとかも優勝したり。

―今でも立守の話結構するんですか。

するする。めっちゃやる。てかさ、やつば六年間いたから立守が一番やつば友達多いんやなって。自分が心を開いてじゃないけど、大学の友達もいるけど。なんかバックグラウンドというかがもう違いすぎて、価値観それこそ金銭面とか、考え方とか、若干合わなかったりするんよ。合うねんけど、立守の方がちゃんと合うって感じで。大学にも立

守の子いて、仲いい子やねん。だからその子と喋ってる方が、気楽やな
って思うこともあるし。大学でも気合う子は何人かおるけど、やっぱ立
守が一番やから。遊ぶのも大体立守やし。そんでいつも喋って、めっちゃ
や思い出話もするし、今の立守の話もするし。校則緩くなったやんな。
—そうです。先週ぐらいから校則変わって、髪色とか自由になって。
—そうTikTokで見て。みんな見つけて、なんか赤髪の子おら
ん？

—いますいます。

見つけて、立守の友達がみんなLINEしてきたり、大学の他校の
子に「立守って髪の毛オッケーだったん」って言われて、「らしいで」
みたいな。

—結構話題なんですか。

結構話題。めっちゃ話題になってるよ大学で。結構いろんな人知っ
てる。TikTok流れてきたって。自分も流れてきたもん。すごい
な。めっちゃ変わったな。

先生との関わり

—お世話になったのが田辺先生、辻先生、坂本先生ですか。

うん。中学の先生なんやけど、仲良かった。なんて言うか、相談と
かに。それこそ部活の先生やって。中学で吹部って中高でやることとか
も多いから、まあ高校なっても関わりあってとかで、なんか6年間ぐら
い。ちなみに田辺先生と喋れる派？

—喋れます。でもあんま喋ってないですね。

私ほんまに最初喋れへんくて、もうほんまに怖くて、勝手に食わず嫌
いじゃないけど、普通に喋れへんくて、ずっと喋れへんくて、自分十月

ぐらいまで喋ったことなかったんよ。最初が辻先生のゼミやったんよ。
だからっていうのもあって、辻先生とはずっと喋ってて、だけど交代で
先生が逆になって、春と秋でな、秋が田辺先生やって、APの方の発表
あるやん。あれで、田辺先生になって、そこで初めて田辺先生と喋っ
て、意外といけるわって思った。勝手にちよっと怖いと思ったけど、勝
手に思ってただけやわ、みたいな。

なんかもう、そこで、最後の頑張ろうと思えたのも、その、APの
発表の時に、田辺先生からのコメントみたいなので頑張ろうと思って。
めっちゃ早めに終わってたんよ、自分のプロジェクトが。夏の時点で終
わってたから、それ踏まえてもう1回やることで意味あると思うし、そ
れやったら最後めっちゃいいものになると思うみたいな感じで言われ
て。なんかもうそういうこと言われると、自分の頑張りうって思っ
ちゃうんよ。だからそこで頑張ろうと思ってもう1回やって。で、そっか
らめっちゃ喋って、色々聞いてもらったりして。もう1回やって。

最後論文みたいな書くやん。書いて気づいたら、最後さ、発表会み
たいなあるやん。成果発表みたい。ほんまに最初、自分はそんなん
なと思ってなかったし、クラス四十人弱おって、1人めっちゃすごい子
がいて、もう一人すごそうなお子がおって、その次が自分やったんよ。だ
からもう2人との差がでかすぎて、発表したくなかったし、正直成果発
表会とか死にそうだったけど。あれもあれで、もう人生の中であんな経
験することはあんまないやろな、みたいな。これから大学もそんなんじ
やないし、逆に出してもらえてよかったなとは思っけど。

高校の授業が大学の授業に活きる

—AP以外だったら、普段の授業で何の教科が一番好きでしたか。

好きな教科、なんやろうな。強いていうなら英語。やけど、中学ん時ほんまに英語得意やったんやけど、高校入って外部からめっちゃ人来るやん。で、GLになったら、すごい人が多いやん。だから、どんどん英語も埋もれちゃって。結局何が好きやったんやろな。やけど、国語と社会はほんまに嫌いやった。まあ数学かな。文系やけど、数学。なんかほんまに勉強が苦手で。勉強苦手ってか、勉強ほんまに嫌いで。それこそ立守みたいにテスト前だけの勉強ぐらいやったらできるんやけど。だから数学か。あとあれ。国際協力今もある？

ー国際協力あります。

あれ好きやった。あれ地味に楽しかった。なんかレポートめんどくさいやん。レポートめんどくさいけど、内容的には楽しい、なんていうか楽しいじゃないけど。あと正直成績が取りやすかったのが一番。結果としてかな。けど、それこそ国際協力書いてたら、大学入ってからレポートがしんどくない。結構出んのよ。週何個か、1週間に何個か。1回生はそんなことないねんけど、2回生とかめっちゃ多いんよ。レポート書かなあかんってなった時に、(立守生とは逆に)外部の子ってこっちの勉強(長期的な勉強)がでんのよ。でもレポートとか無理みたい。そう食マネってテストないんよ。

ーえー。そう。大学って14週ぐらいあって、その1週間後、14週終わってた次の週がテスト期間やねん。理系とかテスト週間にテストがあるみたいな、テストある科目はあるみたい。食マネはそのテスト期間ないんよ。全部レポートとか。言語にしても授業内で、小テストみたいなあるやんか。それとか、中テストみたいなのを中間、期末でやるみたいにな

らないんよ。で、他は全部レポート。みんな結構書くのに詰まんねん。何書けばいいみたいな、けどそれがもうペーって書ける。論文書くのも、たくさん書いたから、レポートがまず苦じゃないし。あとはプレゼン。英語とかプレゼン多いんよ。けどさ、ここってさ、めっちゃプレゼンやるやんか。

ーやりますね。確かに。

でも他ってプレゼンやらへんやん。だからまず人の前に立って喋れないとか、プレゼン作れへんとかいう人が多い。こっちは英語の授業とかテスト系無理なのに、プレゼンなったら余裕やみたい。だから結構びっくりされるっていう。

ーえーみたい。な。

そう。立守のいいところ。そこはほんまにいいところと思う。プレゼンとか論文書けるように。論文とかレポート書けるようになる。せやし、食マネちよっと立守つぽいかも。なんか自由って感じめっちゃ。楽しいで食マネ。

*

食マネやから、若干理系チックなんよ。なんていうの、授業によっちゃ。自分、理系チックな授業、ほんまに何言ってるかわからへん。化学とかあんのよ。たまに難しいやつあるけど、正直友達の方でどうにかなるし、まあそこまで難しくないねんけど化学やるよりも、なんていうの。講義聞いて感想とかレポート書くやつの方が得意やから、逆にみんなはそれが苦手みたい。それ文字数で結構点数変わんねんけど、自分はひたすら文字数書いてみたい。できるから。それやってんのは内部の子多いな、立守の子多いなって思う。

やっぱり高校が楽しい！

―GL（グローバルコース）は濃いですよね。

ほんまにそう！ほんまにそう！ほんまに濃い。いやでも逆に濃いから、文化祭とかも成功するんやろうなと思うけど。前に出たい人多いから。それこそ逆に役決める時に、ほぼ全員役やりたいみたいな。役決めしてる？今。

―役決まりました。

決まった？え、出る？

―出ます。

え、もうみんな出たいみたいなの。でしょ？

―うちのクラスは役、出れる役が多いから、まだまとまってる感じ。でも他のクラスは結構役少なかったりするって、。

なるよな。自分らもそれこそチアダンやからさ、役増やそうと思えばいくらでも増やせるからさ。裏方とかめっちゃくちや少なかった。やから、大道具とかも役出ながらやって、みたいな。難しいな。でもマジで、高校がいつちゃん楽しかった。ほんまに高校が一番楽しくて。もうあと半年とかやろ学校。

―早いー。

もうめっちゃ一瞬やで。ほんまに。あつという間に終わる。もう最後の方とかほんまに高校辞めたくない、ずっと高校生がいいって思ってたもん。大学入ってすぐとか、ひたすら高校戻りたいって思ってた。たまに立守にさ、部活とかで来て、めっちゃくちや戻りたいって思ってる。ずっと。

【感想】

最初はすごく悩みながら高校生活を送っていた姿が印象に残った。しかしAPの探究活動や部活、先生との関わりを通して少しずつ自分の興味や得意なことに気づいていって、進路を見つけた過程は、とてもリアルで共感できた。また、探究をきっかけに本気で何かに取り組めたことや、それが今の大学生活にもつながっているという話を聞いて、高校生活の中で経験が将来にもちゃんとつながっていくんだなと感じた。



右：語り手 稲尾 美宇さん

左：聞き手 木村 真緒